

その他	87,748,390 円
合計	433,532,263 円

Ⅲ キャッシュ・フロー計算書関係	
1 資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	74,812,804,933 円
現金及び預金勘定	74,812,804,933 円
資金期末残高	
2 重要な非資金取引	1,703,099,560 円
ファイナンス・リースによる資産の取得	
Ⅳ 行政コスト計算書関係	
1 公営企業型地方独立行政法人の業務運営に関して住民等の負担に帰せられるコスト	263,264,553,350 円
行政コスト	△179,547,152,408 円
自己収入等	10,295,519,980 円
機会費用	
公営企業型地方独立行政法人の業務運営に関して	94,012,920,922 円
住民等の負担に帰せられるコスト	5,512,425,541 円
(内数) 減価償却充当補助金	

2 機会費用の計上方法	
(1) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による賃借取引から生ずる機会費用の計算方法	
近隣の地代や賃料等を参考に計算しております。	
(2) 地方公共団体出資から生ずる機会費用の計算に使用した利率	
10 年利付国債の令和 7 年 3 月末利回りを参考に 1.485% で計算しております。	
(3) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法	
当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、公営企業型地方独立行政法人での勤務期間に対応する部分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。	
Ⅴ 固定資産の減損関係	
1 固定資産のグループ別方法	
継続的に収支の把握を行っている各施設単位を 1 つの資産グループとしたうえで、重要な遊休資産については別途独立した資産グループとして扱っております。	

 |   |                      |                   |               | |---|----------------------|-------------------|---------------| | 2 共用資産の概要及び減損の兆候の把握等における取扱い方法   |                      |                   |               | | 本部資産については独立したキャッシュ・フローを生み出さないため、共用資産としてグループ化しております。                     |                      |                   |               | | また、当該資産に係る減損の兆候の把握等については、法人全体を基礎として判定しております。                            |                      |                   |               | | 3 当年度に減損を認識した固定資産   |                      |                   |               | | (1) 減損損失を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要                                     |                      |                   |               | | (単位：円)  |                      |                   |               | | 用途  | 場所                   | 資産の種類             | 帳簿価額          | | 遊休資産（がん検診センター等）   | 府中市武蔵台二丁目 28 番地 11 外 | 建物、構築物、建設仮勘定      | 454,013,973   | | 事業用資産   | 新宿区歌舞伎町 2-44-1       | 建物、車両、器械備品、ソフトウェア | 1,377,854,723 | | (大久保病院)   |                      |                   |               | | (2) 減損損失の認識に至った経緯   |                      |                   |               | | ア 遊休資産（がん検診センター等）   |                      |                   |               | | 事業終了等に伴い用途廃止となり、回収可能価額が帳簿価額を下回るため減損損失を計上しております。                         |                      |                   |               | | イ 大久保病院   |                      |                   |               | | 固定資産グループが使用されている営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなり、回収可能価額が帳簿価額を下回るため減損損失を計上しております。 |                      |                   |               | | (3) 減損損失のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳                          |                      |                   |               | | 減損額のうち損益計算書に計上した金額  |                      |                   |               | | ア 遊休資産（がん検診センター等）   |                      |                   |               | | 建物  |                      |                   |               | | 442,968,822 円   |                      |                   |               | | その他   |                      |                   |               | | 11,045,107 円  |                      |                   |               | | イ 大久保病院   |                      |                   |               | | 器械備品  |                      |                   |               | | 889,192,771 円   |                      |                   |               | | その他   |                      |                   |               | | 115,685,617 円   |                      |                   |               | | 減損額のうち損益計算書に計上していない金額   |                      |                   |               | | 0 円   |                      |                   |               | | (4) 回収可能価額の算定方法の概要  |                      |                   |               | | 回収可能価額は正味売却価額により測定しております。   |                      |                   |               | | ア 遊休資産（がん検診センター等）   |                      |                   |               | | 取り壊し予定等のため正味売却価額を零として評価しております。  |                      |                   |               | | イ 大久保病院   |                      |                   |               | | 取引事例等を勘案した合理的な見積りにより評価しております。   |                      |                   |               | |